

地域ケア推進会議 報告書

【医療・介護連携に関する場合のみ】

提出日	2021年3月29日
作成 高齢者支援センター	忠生1
作成者	山口明美

1.開催日時	2021年3月25日	(木)	18:00	～	19:00
2.会場	オンライン会議(Webex)				
3.主催センター	忠生1	・	0	・	0
4.参加人数	43名				
5.参加者内訳	☒ 高齢者支援センター 9 人 ☒ 医療と介護の連携支援センター 1 人				
	☒ 医療関係者 2 人 (うち、医師 人) ☒ 介護事業者 30 人				
	☐ 民生委員 人 ☐ 老人会 人 ☐ 住民 人				
	☐ 町内会自治会 人 ☐ 警察 人 ☐ 行政 人				
	☒ その他 (アドバイザー1名)				
6.開催テーマ	「きちんと知りたいリハビリの視点」				
7.地域課題	(1)課題設定の背景 新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、自粛期間が長期になり、外出の機会が減りフレイルの進行等で介護保険申請の相談が増えている状況である。 (2)検討した地域課題 今後、生活機能の低下した高齢者に対して個々のニーズに合ったリハ専門職活用の検討が必要である。 リハ専門職における自立支援・重度化防止の取組を共有をする。				
8.会議の内容	■生活期のリハビリテーションについて、リハビリ専門職からのアドバイス 日常生活の活動性を高め、生きがいづくりや社会参加を促すリハビリテーションの必要性と生活に密着した目標や期間を決めてリハビリテーションサービスを提供していくという仕組みの検討が必要であること。 ■訪問リハビリテーションが変えていかなければいけないところ ■2021年度の報酬改定について				
9.課題に対する対応策・今後の地域での展開	課題に向けて効果的な話し合いには至っていませんが、コロナ禍での地域課題の把握及び共有ができた。そこからリハビリテーションの訓練や機能改善は、あくまでも手段であって訓練によって獲得し向上した機能を使って、どのような活動、どのような社会復帰(参加)するかまでを考えた目標を設定する責任がケアマネジャーにあるということを講師からアドバイスを受けた。今後は事例を通して具体的にリハビリから卒業し地域の自主グループへつないだ事例と、身体機能の向上だけを目標としてしまう(達成できない)目標のため延々とリハビリを続ける状態になっている事例を用いてい者会資源の活用を具体的に考える会議へと展開していきたい。				